



民児協いばらき

☆民生委員・児童委員バッジは、幸せのクローバーに「み」の文字と双葉で鳩をかたどり愛情と奉仕を表しています。

2011年(平成23年)8月15日 第67号



土浦きらら祭り

押久保忠夫 元編集委員 撮影

目次

- 会長あいさつ…………… 2
- 新任員の紹介…………… 9
- 就任あいさつ (渡邊副会長) …… 2
- 平成23年度県民児協事業計画・予算……10
- 就任あいさつ (竹内副会長) …… 3
- 平成22年度決算……………11
- 就任あいさつ (県保健福祉部長) …… 3
- 事務局だより……………12
- 第71回関ブロ研究協議会の開催…………… 4
- 編集後記……………12
- 研究協議会の概要…………… 8

第2次 民生委員・児童委員発

災害時一人も見逃さない運動 展開中

残暑お見舞い申し上げます



県民児協 会長 高木 彦 治

昨年十二月一日の一斉改選後、はや七ヶ月が過ぎましたが、新しく就任された皆様は、民生委員児童委員としていろいろな経験を積まれていることと存じます。

過日、新聞に二〇一〇年の国勢調査の速報がでておりましたが、一人暮らしの世帯が総世帯数の三十一・二%となり、初めて三割を超えたとのことです。今、大きな社会問題となっている自殺、孤独死、引きこもり、虐待などは、孤立化が関わっているといわれており、単身世帯の増加は、こうした傾向に一層拍車をかけるのではないかと、大変危惧しているところでもあります。民生委員児童委員の根本は、地域住民の方々の良き頼り人となり、信頼を受け、新しき人的交流を図り、「絆」が深く結ばれる環境を創ることだと思いま

す。皆様のご活躍をご期待申し上げます。

さて、去る六月に大洗町において、十四年ぶりに本県民児協が当番となり、第七十一回関東ブロック研究協議会が開催されました。茨城県立健康プラザ管理者大田仁史先生の心に残る記念講演の後、茨城県知事代理根本保健福祉部長様、全民児連天野会長様、茨城県社会福祉協議会関会長様、大洗町小谷町長様のご臨席を仰ぎ、管内十九都県市から二百五十六名の方々が参加され、成功裡に終えることができました。末筆ながら、開催にあたり、多大なご支援・ご協力をいただいた茨城県をはじめ、関係機関、県内委員の皆様にご心よりお礼申し上げます、ご報告とさせていただきます。

副会長就任あいさつ



県民児協 副会長 渡邊 和 雄

本年三月に発生した未曾有の東日本大震災により被災された皆様方にお見舞いと犠牲となられた方々の御霊に衷心より黙祷を捧げます。

昨年十二月の一斉改選に伴う、県民児協役員改選があり、県民児協理事会の推薦により、副会長を拝命し、浅学非才な私には、責務の重大さを痛感しております。高木会長を初めとする鯨井副会長、竹内副会長のご指導をいただきながら、先人の方々が築かれてきた、県民児協のさらなる発展のため、微力ではありますが、誠心誠意運営に努めてまいります。

改選後の新体制において、各民児協も民生委員制度創設一〇〇周年に向けた民生委員児童委員行動宣言「広げよう 地域に根ざした思いやり」のスローガンのもとに、住民の立場に立った活動の推進と、安心して住み続けることができる地域社会づくりのため、人間関係の希薄化の中で孤立、孤独をな

くす運動、一人暮らし高齢者への見守り、児童虐待の問題、不登校児童、犯罪被害から子供を守る取り組み、悪質商法被害の問題等々の活動強化を図っておられることと思えます。民生委員児童委員と主任児童委員が協働で、地域における新たな支え合い、地域住民と行政、関係機関との福祉づくりを協議し、住民の多様なニーズに対応できる体制、知識が求められると思えます。

私達民生委員には「秘密を守る義務」が民生委員法第十五条に定められており、委員皆様と共に守り、民児協組織の中にあつては、報告、連絡、相談、(報、連、相)を確認事項とし「目くばり、気くばり、思いやり」の心を持って地域福祉活動にあたっていく所存であります。

重ねて委員皆様のご支援とご指導をお願い申し上げます、あいさつといたします。

副会長就任あいさつ



民児協 副会長 竹内 昌信

昨年十二月一日の一斉改選により、はからずも、茨城県民児協理事会のご推挙により、副会長という重責を拝命し、身に余る光栄であるとともに、役職の重大さを痛感いたしております。高木会長の経験豊富な手腕と、鯨井副会長の女性ならではの繊細なところ遣い、洗練された渡辺副会長のご指導の下で、浅学非才ではございますが、県民児協の一致協力体制による発展のため、まい進する所存でございます。皆様のご支援、ご協力を切望いたしております。

去る三月十一日午後二時四十分発生した世界最大級の「東日本大震災」により、一万余名名の尊い生命を失われた皆様に対し、まして衷心よりご冥福をお祈りし、今なお行方不明の方々、そして被災者の皆様にご心よりお見舞いを申し上げます。

日本の永い歴史災害の折、常に人は決して崩れることの無い「大和魂」を発揮し、多くの人々から寄せられる暖かい支援に守られ、道のりは長いかもしれませんが、必ず復興の日が来ることを固く信じて頑張り続けて参りました。

民生委員・児童委員も、「広げよう 地域に根ざした 思いやり」の宣言を幅広く理解し、今回の「東日本大震災」から思い出される、元ケニヤ副環境大臣のワングリ・マータイ女史(ノーベル平和賞受賞)が世界に日本語で伝道した「もったいない」という「ものの有り難さと大切さ」を伝えることが重要ではないかと考えます。

委員の皆様と知恵を駆使してまいります。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

人が輝く元気で住みよい



茨城県保健福祉部長 根本 年明

いばらきづくりをめざして

民生委員・児童委員の皆様方には、日頃から地域福祉の向上に多大なる御支援と御協力を賜り心から感謝申し上げます。

また、この度の東日本大震災に際して、発災直後から自身の被災も省みず、担当地域の災害時要援護者の安否確認に奔走され、被災者の支援や復旧活動に当たっていただいたいておりますことに、深く敬意と感謝の意を表します。

さて、近年、急速な少子高齢化の進行に伴い、県民の保健福祉行政に対するニーズは、ますます複雑・多様化しております。

そのため、県といたしましては、「人が輝く元気で住みよいいばらきづくり」を目標に掲げ、「医療・保健・福祉が充実した安心できる社会づくり」の実現に向けて、様々な施策を展開しているところです。

特に、少子化対策につきましては、次代の社会を担う子どもたちが

が健やかに生まれ、育まれる社会の実現を目指して、すべての子育て家庭への支援、男女の出会いの場づくりの支援、家庭の役割や結婚・子育ての喜び、楽しさについての理解促進などに取り組んでまいります。

また、高齢者対策につきましては、「第4期いばらき高齢者プラン21」に基づき、高齢者の介護予防と健康・生きがいづくりを推進していくほか、利用者本位の介護サービスの充実など、高齢者がいきいきと活躍できる健康長寿社会づくりを推進してまいります。

こうした施策の推進にあたっては、住民の立場に立った活動をされている皆様方の御協力が不可欠でございます。今後とも、本県の地域福祉の向上により一層の御尽力を賜りますことをお願いいたしますとともに、皆様の御健勝を心からお祈り申し上げます。

研究協議会の開催

平成23年6月23日(木)～24日(金)
大洗町

※ご来賓の皆様の祝辞、記念講演、基調報告は要約させていただきました。

来賓祝辞

茨城県保健福祉部長

根本 年明様



本会が盛大に開催されましたことを、心よりお慶び申し上げます。また、心から歓迎いたします。

民生委員児童委員の皆様には、東日本大震災発災直後から、被災者の支援や復旧活動に当たっていただいたことに深く感謝を申し上げます。また、この震災で亡くなられた方々のご冥福を謹んで申し上げますとともに、被害を受けられた皆様にお見舞いを申し上げます。

本県でも、住みよい茨城づくりを県政の目標に掲げ、地域における福祉サービスの充実等に取り組んでいます。このような状況の下、各地で活躍されている皆様が、実践報告や意見交換を行い、交流を深めることは誠に意義深いことです。

結びに、ご参会の皆様の益々のご活躍、ご健勝をお祈り申し上げます、お祝いのことばといたします。

全民児連会長 天野 隆玄様

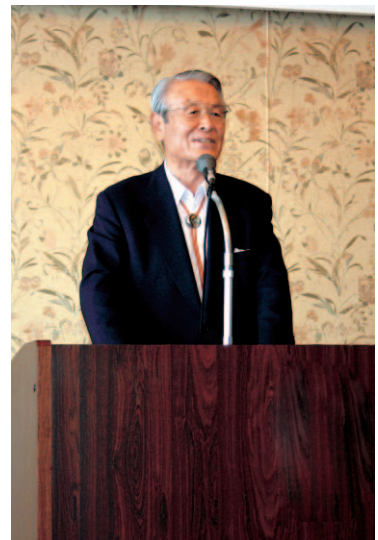
お招きをいただき、誠に有難うございます。

三月十一日に発生した東日本大震災では、民生委員児童委員においても、死者三十八名と行方不明を含めて五十五名の安否が不明になっています。ここに謹んでご冥福を申し上げます。被災者に対する支援活動を継続的に進め、民生委員児童委員支援のための義援金を募集したところ、一億三千万円を超える義援金をお寄せいただき、皆様のご理解とご協力に感謝を申し上げます。次第です。

全民児連では民生委員制度創設九十周年活動強化方策「広げよう 地域に根ざした思いやり」行動宣言に基づいた取り組みを進めて参りましたが、これからの課題を進める上でも、皆様の今後の取り組みを重ねてお願いする次第であります。



茨城県社協会長 関 正夫様



今日は同窓会というクラス会みたいな感じで、ご招待いただいて出席してよかつたなと感じております。

世の中をよくすることを、あまり一生懸命考えても皆さん疲れてしまいますよ。今晩ゆっくりとされて、明朝、ホテル正面の高台にある磯前神社から海を眺めていただきますと、磯に建っている小さな鳥居の後方から、後光が差すように大きな太陽が昇ってきますので、早めに起きて、運気を強くしていただけだと思います。

私どもも、地域の民生委員児童委員に大変お世話になっております。困れば困るほどお世話になります。こんな有難い話はないのですから、胸を張ってゆつくり勉強会に参加し、皆様の仕事が大変に仲良くやっていますように、お元気で頑張っていただけましてあいさつといたします。

第71回関東ブロック活動

大洗町長 小谷 隆亮様



本日は、たくさんの方が大洗にご参会いただき、盛会に開催できましたことを心からお慶び申し上げます。また、皆様方は日頃から、地域の福祉をしっかりと守っていただいております、心からお礼を申し上げます。

さて、三月十一日の大震災では、ここ大洗も大きな被害を被ったところでした。しかしながら初動体制がうまくいき、犠牲者を一人も出さずにすみました。けれども、震災後、町民は元気をなくしています。そこには、盛会に大勢の皆様をお迎えできたことは、地元町長として嬉しく、感謝に堪えない次第です。

波濤万里、窓から沖合を見えていますと、人間が生きていく思いや父母の願いが海の底から聞こえてくるようであります。そんな思いを受けていただきながら、本会が実り多いものとなりますようご祈念申し上げます、あいさつに代える次第です。

記念講演

演題「支え合う地域づくり」

茨城県立健康プラザ管理者

医学博士 大田 仁史様

○人と人との繋がりが支え合う地域づくり
平成二十三年三月十一日の東日本大震災という共通の話題で、確かな人と人とのつながりができたはずです。

○津波のごとく高齢化がおおいかぶさる時代

○超高齢化の津波対策

○最後まで人間らしく生きる方法を自分で守る。

○身体活動と介護予防の関係

○介護予防運動の考え方

○地域で支える「連携」と「重層的ネット」
一日でも二日でもいい、一人一人が何かのネットワークにひっかかってほしい。

シルバリーリハビリ体操指導士を養成し、官民一体となったネットをはり、超高齢化社会を乗り切ってほしいばかりです。



基調報告

民生委員・児童委員活動を

めぐる動向と対応について

社会福祉法人全国社会福祉協議会

民生部副部長 渡邊 昌行様



○課題を抱える人々の支えとしての役割

地域社会での孤立感が深まる中で、「絆」を深め、支え合う仕組みづくり。

○民生委員・児童委員が活動しやすい環境づくりに向けた取り組み

活動に必要な情報の提供について関係者の理解・ルールづくり等の促進を図る。

○民生委員・児童委員研修のあり方方針

「研修の充実促進に資する調査」を踏まえ、場所・講師内容等研修のあり方について検討する。

○PR活動の充実強化

活動の広報、ホームページ、機関誌の充実を図り、日常的なPR活動を積極的に推進する。

第一分科会

(参加者五十五名)

地域社会での孤立・孤独をなくす取り組みの強化について

中高齢者孤立化による孤独死、自殺、それに起因する事件、事故の続発と地域社会で孤立しない支援のための仕組みをどうしたらよいか、地区民児協としての取り組みについての意見の発表や交換がなされた。

- ・ 民児協として要援護者へのアンケート実施
 - ・ 見守り(顔の見える関係づくり)支援活動のためのマップ作り
 - ・ サロン、ふれあいティールームの定期的開催
 - ・ 認知症予防の寸劇、健康体操の定期的実施
 - ・ 小学校と協働で授業参観、合唱会の開催
 - ・ 転倒予防体操、脳トレーニングゲーム実施
 - ・ 地域福祉活動のための自主財源活動(寄付機能付きの自販機の設置など)
- ◎コーディネーターからのコメント
- ・ 高齢者は免許の返納などで足を奪

われ孤立化し、自宅にひきこもるので、いかにして連れ出すか工夫すること。

・ 自殺、孤独死の増加のなか、高齢者各人のSOSの発信を、いかにキャッチして生かすかがポイントである。

・ 独居高齢者は、みな生活環境が異なるので、個人を守る意識で互助、公助、共助の精神で助け合うことが大切である。



「見守り」をなくす取り組み



第二分科会

(参加者四十八名)

児童虐待や犯罪被害などから子どもを守る取り組みの強化について

それぞれの地域における具体的活動が、四名の実践報告者より披露された。

・ 「子育てに関する様々な資料」を、行政と協働で作成し成果をあげている。

・ 子育て中の家庭には、「子育て」に孤独を感じないよう配慮している。

・ 親同士が知り合う機会、子ども達が地域に愛着を感じるような機会をつくり、住民間のつながりを強化している。

・ 子育て支援をより円滑に行うため、各関係機関との親密なネットワーク構成の上で、更なる連携を重視している。

◎コーディネーターからのコメント

- ・ 少子化で子どもが全体に減っているにも拘わらず、各地の児童養護施設への入所者数は急速に増加している。

・ 児童相談所の一時保護施設は満杯状態。

・ 十年前は十組に一組だった不妊治療が、現在では七組に一組の夫婦が治療しているといわれている。

・ いま時の女性達は子どもが欲しくなくて産まないのではなく、産みにくい、育てにくい社会環境になっっている。

・ 児童への虐待や犯罪による被害を防ぐために、課題を抱える家庭を児童委員として、民児協として、

どう支援していくかを更に検討していく必要がある。



児童虐待や犯罪被害などから子どもを守る取り組みの強化について



第三分科会

(参加者五十二名)

災害時における要援護者支援活動の推進について

本県被災地での活動報告の後、要援護者の情報収集の在り方、情報共有の範囲、名簿とマップの一体化とその活用方法、地域で災害の発生を想定した日頃の取り組みなどについて、貴重な発表や意見交換がなされた。

- ・地震発生直後、停電、断水、通信不能、交通マヒ等があり大変困難な状況下で安否確認・避難誘導を行った。
- ・行政サイドからは、最低でも三日分の飲料水と食べ物を、自己責任のもとで確保するよう話があった。
- ・要援護者の登録制度を実施しているが、なかなか増えない。プライドバシーとプライドの問題が大きい。
- ・「安心カード」を作成し、冷蔵庫に保管し、目印を付けている。
- コーディネーターからのコメント
- ・災害時に、日頃受けている地域の



ケアを継続して、二次的な健康被害に会わないように対応することも大事である。

・地域で起こりうる災害を想定し、災害ドラマのシナリオを多くの人たちを巻き込んで作成し、イメージをふくらませておくことで、お金を掛けずみんなの知恵と汗と絆で考えた対策は非常に有効である。

第四分科会

(参加者三十六名)

生活困難家庭と地域社会とのつなぎ役を務める取り組みの推進について

生活困難世帯(者)の支援を、きめ細かな活動により得た情報に基づき、関連する機関と連携して、最終に向けての手順等の取り組みについて、検討がなされた。

- ・母親死亡後残された無職無収入の高齢な二人兄弟世帯に向けた支援活動。
- ・困窮家庭が増える中、少子高齢化と核家族化の進行に伴う近所付き合いの希薄化が、孤独死・孤立死を増加させる社会問題。
- ・認知症七十代女性に対する支援と、親族が関わりを全面拒否による入院及び施設入所問題。
- ・スーパリーの駐車場でのホームレス男性の自立生活支援。
- ・出産間近の母親が居る九人世帯の困窮家庭で、地域と接触を拒否する家庭への支援活動。
- コーディネーターからのコメント
- ・定例会でチームとして日常的に考



えてみる(ケース検討)。

・地域住民としてもっとおせっかい焼きになっても良い。

・行政からのデータ・統計調査等入手した資料を自分のものにして活用してほしい。

・ケースバイケースで定例のものはない、他機関へつなぐ時は詳しく、具体的に、手立て、段取り、時機を見て進める。

・検討するときは沢山の選択肢を出し優先順位をつけて実施する。

研究協議会の概要

○平成二十三年度(第七十一回) 関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会

- ・とき 平成二十三年六月二十三日(木)～二十四日(金)
- ・ところ 大洗シーサイドホテル
- ・参加者 一都十県八政令指定都市 二五六名

七十一回目となる研究協議会茨城大会は、前回、本県民児協が当番となった平成九年度以来十四年ぶりとなった。しかし、三月十一日の東日本大震災の影響により、当初計画していた会場が使用できなくなり、延期や中止も含め、計画の再検討を余儀なくされたが、関係各位の激励やご努力により、主会場を変更しての開催となった。

開催にあたっては、理事、監事及び評議員で構成する実行委員会を組織するとともに、茨城県をはじめ、水戸市民児協など関係の皆様のご協力を得、大会運営を担っていただき、遠くは三宅島や佐渡島など、関東甲信越静ブロックの各地から予想を上回る方々をお迎えでき、成功裡に幕を閉じることができた。

○第一日目(六月二十三日)

実行委員はじめ、担当係員は午前9時に会場である「大洗シーサイドホテル」に集合し、高木会長のあいさつ後、受付など各持ち場の確認にあたった。全員、「いばらきブルー」のスタッフジャンパーを着用し、元気に業務を遂行する。

大半の参加者が利用する水戸駅には、記録的な暑さの中、水戸市民児協の方々が、改札口から送迎バス発着所まで所要所にプラカードを持って、温かく出迎えた。

会場には、万が一の事故対応のため看護師を配置し、午前十時頃から来賓、都県、指定都市、代表者会議、茨城県別に受付体制に入った。

【代表者会議】

午前十一時から全国民生委員児童委員連合会会長天野隆玄様、全国社会福祉協議会民生部副部長渡邊昌行様をお迎えし、都県市民児協会長、事務局長で構成する代表者会議が開催され、第七十一回大会の運営等について協議がなされ、開催県である茨城県民児協の提案どおりで開催することが決定された。

【開会・記念講演】

午後一時、本県民児協の鯨井登美子副会長の総合司会のもと、渡邊和雄副会長の開会のことばで幕を明け、記念講演に入った。茨城県立健康プラザ管理者の大田仁史先生から、シルバリーハビリ体操の重要性

について、多くの笑いを誘いながらお話ししていただき、参加された方々の共感を呼ぶ素晴らしい講演となった。

【式典】

午後二時四十分、式典が開始された。まず、(1)民生委員児童委員信条を瀬畑洋子理事の先導で唱和し、次に(2)東日本大震災犠牲者及び物故民生委員児童委員に対し、黙祷を捧げ、(3)主催者あいさつを、高木彦治会長が述べ、(4)来賓あいさつは、茨城県知事橋本昌様が出席予定だったが、災害対策関係で急遽欠席となり、保健福祉部長の根本年明様が知事代理でごあいさつされた。続いて、全民生委員児童委員の天野隆玄様、茨城県社会福祉協議会会長の関正夫様、開催地となった大洗町の小谷隆亮町長様からそれぞれごあいさつをいただき、式典が終了した。

【全体会】

午後三時二十分から全体会に入り、高木会長が議長を務め、(1)前年度活動研究協議会報告が横浜市民児協協長谷川正義会長様からあり、次に(2)基調報告を全社協渡邊副部長様から行っていた。続いて(3)次回開催地である栃木県民児協山口政志会長様からごあいさつがあり、平成二十四年度は六月二十一日(木)、二十二日(金)に鬼怒川温泉「きぬ川ホテル三日月」で開催されることが披露された。その後、本県民児協全役員が

ステージ前に整列し、水戸市民児協木村尚子理事の指揮により、参加者全員で「花咲く郷土」を斉唱し、最後に、本県民児協竹内昌信副会長が閉会のことばを述べ、第一日目終了した。

【分科会関係者事前打合せ】

二十四日に行う分科会について、コーディネーター、実践報告者、運営責任者などの関係者が、全体会終了後、各分科会ごとに、事前打合せを行った。

【夕食会】

東日本大震災で犠牲となられた方々への哀悼の意を表し、アトラクションなどは行わなかったが、「大洗シーサイドホテル」の心のこもった料理に加え、高木会長が磯節を披露し、和やかな交歓が図られた。

○第二日目(六月二十四日)

【分科会】

午前九時から正午まで、四つのテーマに分かれ、熱心な研究協議が行われた。

【内容等は、六～七頁参照】

○すべての行事が終了し、会場前で関係者一同がお見送りする中、各都県市から参加された方々が、元気に手を振って帰途に着かれた。この日も前日以上の暑さとなったが、水戸駅には水戸市民児協の方々が待機し、最後までおもてなしの心でお見送りをを行った。

役員紹介

民生委員児童委員の一斉改選により任期満了となった役員の改選が行われ、平成二十三年二月開催の理事会及び評議員会において、次の方々が選任されました。

●役員

- 会長 高木 彦治(鹿嶋市)
- 副会長 鯨井登美子(下妻市)
- 理事 渡邊 和雄(水戸市)
- 竹内 昌信(小美玉市)
- 小室 正行(日立市)
- 佐野 道夫(土浦市)
- 中山美代子(常総市)
- 関根 利雄(高萩市)
- 瀬畑 洋子(笠間市)
- 宮本 勇(つくば市)
- 神保 忠正(ひたちなか市)
- 長谷川 彌(潮来市)
- 宮島 孝明(つくばみらい市)
- 市村 捷二(北相馬郡)
- 五十畑まち子(水戸市)
- 平井 純子(石岡市)
- 朝日 光臣(常陸太田市)

●評議員

- 〔水戸市〕 大内 元一、飯村 義雄、桑名 賢
- 〔日立市〕 塙 昭一、助川 二郎
- 〔土浦市〕 細野 文哉、折本 佐平
- 〔古河市〕 三村 重雄
- 〔石岡市〕 小坂部和子
- 〔結城市〕 鈴木 直美
- 〔龍ヶ崎市〕 半田 健市
- 〔下妻市〕 落合繁治郎
- 〔常総市〕 若月 博
- 〔常陸太田市〕 大森 勝芳
- 〔高萩市〕 三國 省治
- 〔北茨城市〕 鈴木 正義
- 〔笠間市〕 佐藤 肇
- 〔取手市〕 内藤 義彦
- 〔牛久市〕 片岡キヨ子
- 〔つくば市〕 慶野多美子、飯竹 榮司
- 〔ひたちなか市〕 黒澤 年雄、安 正機
- 〔鹿嶋市〕 大槻 光夫
- 〔潮来市〕 植田 義継
- 〔守谷市〕 柳生 進
- 〔常陸大宮〕 梶 文雄
- 〔那珂市〕 神尾 多門
- 〔筑西市〕 鶴見 重夫
- 〔坂東市〕 倉持 嘉男
- 〔稲敷市〕 坂本 吉弘
- 〔李参ら市〕 飯島 偉市
- 〔桜川市〕 小野塚俊男
- 〔神栖市〕 人見 隆
- 〔行方市〕 五十野道夫

部会・専門委員会

※◎は委員長及び部会長

○は副委員長及び副部会長

●総務委員会

- 委員 ◎鯨井登美子
- 宮島 孝明
- 渡邊 和雄
- 小室 正行
- 早川 忠雄
- 宮本 勇
- 長谷川 彌
- 委員 ◎宮本 勇
- 中山美代子
- 細野 文哉
- 片岡キヨ子

●互助事業運営委員会

- 委員 ◎宮本 勇
- 中山美代子
- 細野 文哉
- 片岡キヨ子

●編集委員会

- 委員 ◎長谷川 彌
- 清水 愛子
- 杉下 赫子
- 鈴木 正義
- 鶴見 重夫
- 竹内 昌信
- 市村 捷二
- 委員 神保 忠正
- 齋藤 友良

●茨城県社会福祉協議会

- 生活福祉資金運営委員会委員
- 委員 佐野 道夫
- 鈴木 直美
- 瀬畑 洋子

●児童福祉部会

- 委員 ◎関根 利雄
- 大内 元一
- 鯨井登美子
- 慶野多美子
- 坂本 吉弘
- 人見 隆
- 高橋 一夫
- 古森 貞弘
- 小室美智子
- 染谷 法子
- 平島 幸子
- 大越わくり

平成23年度 県民児協事業計画・予算

運営方針

今日、我が国においては、少子高齢化、核家族化が急速に進行するなか、家族関係や地域社会におけるつながりが薄れ、また、長引く景気低迷により、先行きが不透明になっており、将来への不安や様々な生活課題、福祉課題を抱える人々が増加しています。特に、高齢者や障害者、子育て家庭等における、社会的孤立を背景とした課題への対応や、生活困難家庭への支援が重要な課題となっています。さらに未曾有の被害をもたらした東日本大震災は、本県にも大きな爪痕を残し、被災された住民への支援や地域の復興が急務となっています。

このような状況にあって、国民生活を支える社会保障・社会福祉制度の充実とあわせて、地域の住民、様々な機関・団体等が連携して、地域社会の絆を深め、支え合う仕組みづくりが求められており、地域の頼り人として常

に住民の立場に立ってきめ細かな相談・支援を行う民生委員児童委員の役割が、改めて認識されています。

わたしたちは、民生委員制度創設100周年に向けた活動強化方策「広げよう地域に根ざした思いやり」行動宣言にのっとり、日常的な見守り活動等を通して、これからも地域に密着した活動をすすめます。

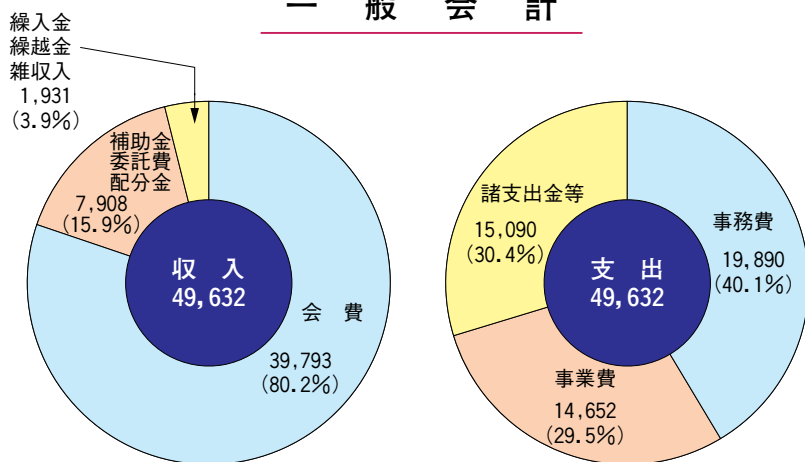
本年度重点目標

- 1 民生委員制度創設100周年に向けた「広げよう地域に根ざした思いやり」行動宣言のもと、常に住民の立場にたつて地域福祉活動の推進につとめる。
- 2 児童、高齢者、障がい者など社会的弱者や生活困難家庭を常に見守り、関係者との連携・協働を強化して、支援活動の推進につとめる。
- 3 「第2次民生委員・児童委員発災害時一人も見逃さない運動」の推進につとめる。

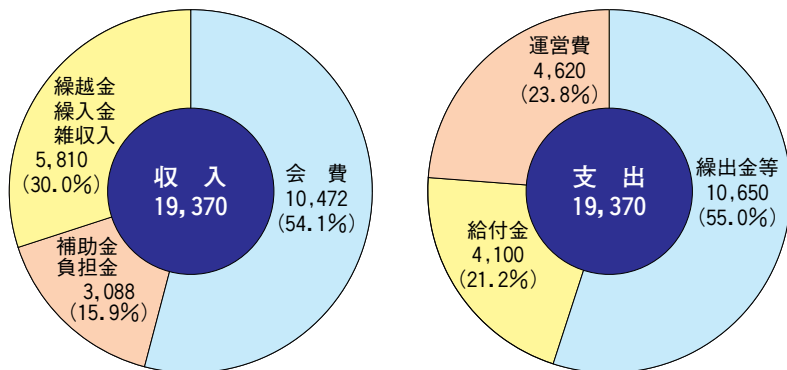
予 算

(単位：千円)

一 般 会 計



互助事業特別会計



事業計画

事項月	県民児協
4	・主任児童委員委員長会 (21日) ・正副会長会議・総務委員会 (27日)
5	・理事会 (17日) ・児童福祉部会 (18日) ・監事会 (20日) ・評議員会 (27日) ・関プロ実行委員会
6	・民児協いばらき編集委員会 (6日) ・第71回関東ブロック活動研究協議会(23~24日)
7	・民児協いばらき編集委員会 (11・22日) ・主任児童委員研修会 (29日 水戸市) ・互助事業運営委員会
8	・正副会長会議 ・総務委員会 ・民児協いばらき編集委員会 (9日) ・関プロ報告書編集委員会 (23・24日) ・民児協いばらき (67号) 発行
9	・市町村民生委員児童委員協議会会長・副会長合同研究協議会 県北・鹿行地域 (1~2日 大洗町) 県南・県西地域 (8~9日 大洗町) ・関プロ報告書編集委員会 (13・16日) ・市町村民生委員児童委員教室 県北・鹿行地域 (29~30日 大洗町)
10	・市町村民生委員児童委員教室 県南・県西地域 (6~7日 大洗町) ・全体研修会 (19日)
11	・民児協いばらき編集委員会 ・第30回茨城県民生委員児童委員大会(25日) ・互助事業運営委員会
12	・民児協いばらき編集委員会
1	・民児協いばらき (68号) 発行
3	・正副会長会議・総務委員会 ・理事会・評議員会 ・互助事業運営委員会

「平成23年度茨城県民生委員児童委員協議会事業計画・予算」は、3月25日(金)に評議員会を開催し、議決していただく予定でしたが、東日本大震災の影響で開催することができず、寄付行為第29条第3項の規定に基づき、書面での賛否を諮ったところ、評議員全員から賛同を得、議決されました。

平成22年度決算（一般会計・特別会計）

●一般会計収支決算書

1 収入

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	摘 要
1 会 費	39,664,000	39,664,400	民生委員児童委員 5,219人
2 補助金	6,121,000	6,121,700	
3 委託費	1,300,000	1,300,000	
4 配分金	800,000	800,000	共同募金配分金
5 繰入金	1,960,000	1,936,404	基本財産 利子 運用基金
6 繰越金	700,000	787,336	
7 雑収入	13,000	279,364	全民児連及び徳島県からの義援金等
合 計	50,558,000	50,890,204	

- 1 収入総額 50,890,204円
 2 支出総額 48,261,534円
 3 差引残額 2,628,670円 (翌年度へ繰越)

2 支出

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	摘 要
1 事務費	20,910,000	20,576,105	
(1) 給与費	18,740,000	18,487,423	職員2名 嘱託1名
(2) 庁費	2,100,000	2,020,662	
(3) 旅費	70,000	68,020	
2 事業費	14,652,000	12,993,995	
(1) 企画 運営費	3,750,000	2,617,551	理事会、評議員会、監事会、 総務委員会ほか各部会及び委 員会、児相・教育事務所等と の連絡会議
(2) 研修費	6,250,000	5,940,242	会長・副会長研究協議会、民 生委員児童委員教室、関東ブ ロック活動研究協議会参加、 全国大会参加、全民児連主催 各種研修会参加等
(3) 調査費	50,000	33,360	
(4) 共同募金 事業費	100,000	92,334	
(5) 民協活動 推進費	602,000	532,910	指定民児協助成(つくば市、 小美玉市、茨城町、八千代町)、 会長手帳代、発送費等
(6) 機関誌 発行費	1,400,000	1,337,580	民児協いばらき 年2回
(7) 表彰費	2,500,000	2,440,018	茨城県民生委員児童委員大会
3 諸支出金	14,896,000	14,691,434	全国互助共励事業会費、全民 児連会費、関プロ会費、諸団 体会費等
4 予備費	100,000	0	
合 計	50,558,000	48,261,534	

●互助事業特別会計収支決算書

1 収入

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	摘 要
1 会 費	10,438,000	10,438,000	民生児童委員 5,219人
2 補助金	1,565,000	1,565,700	
3 負担金	1,565,000	1,565,700	
4 繰越金	1,900,000	1,918,039	
5 繰入金	1,960,000	1,960,000	
6 雑収入	9,000	1,200	
合 計	35,077,000	35,088,639	

- 1 収入総額 35,088,639円
 2 支出総額 29,167,285円
 3 差引残額 5,921,354円 (翌年度へ繰越)

2 支出

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	摘 要
1 弔慰給付金	1,750,000	1,250,000	本人死亡 17件 配偶者 19件
2 傷病給付金	1,000,000	590,000	59件
3 災害給付金	100,000	20,000	1件
4 退職給付金	28,300,000	23,603,000	一斉改選1,528件、一般26件
5 互助事業 運営費	3,920,000	3,704,285	
6 繰出金	0	0	
7 雑費	7,000	0	
合 計	35,077,000	29,167,285	

●互助事業積立金特別会計収支決算書

1 収入

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	摘 要
1 繰越金	37,096,000	37,075,721	
2 雑収入	30,000	12,993	
3 繰入金	0	0	
合 計	37,126,000	37,088,714	

- 1 収入総額 37,088,714円
 2 支出総額 37,088,714円
 3 差引残額 0円

2 支出

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	摘 要
1 積立金	17,526,000	17,488,714	
2 繰出金	19,600,000	19,600,000	
合 計	37,126,000	37,088,714	

事務局だより

東日本大震災で被災 されました皆様に、 心よりお見舞い申し 上げます。

●三月十一日に発生した東日本大震災では、本県においても甚大な被害がありました。各地域の民生委員・児童委員におかれましては、発生の直後から、一人暮らしの高齢者をはじめ、要援護者の安否確認や、避難誘導など、日頃の「災害時一人も見逃さない運動」により、機敏に対応され、改めて民生委員・児童委員の活動が評価されたところです。

一方で、道路や情報網などの寸断により、関係者間の連絡がとれないといった問題も認識され、今回の関東ブロック活動研究協議会の分科会でも協議されました。

各民児協におかれましては、今後も市町村と一体となつて、災害に強い体制づくりのためお骨折りいただきますとともに、県民児協としましても、県や全民児連などからの情報収集・発信に努めてまいります。

●県保健福祉部の人事異動(民生委員・児童委員関係) 平成二十三年四月十六日付 (敬称略)

- | | |
|-----------|------------|
| 部長 | 根本 年明 (新任) |
| 次長 | 鈴木 健一 (新任) |
| 福祉指導課長 | 清宮 正人 (留任) |
| 子ども家庭課長 | 齋藤 牧子 (新任) |
| 長寿福祉課長 | 亀山 勝久 (留任) |
| 障害福祉課長 | 鈴木 克典 (留任) |
| 福祉相談センター長 | 橋本 義弘 (留任) |
| 土浦児童相談所長 | 和久井 満 (新任) |
| 筑西児童相談所長 | 木内 継根 (新任) |

●県民児協主催の研修会・大会のお知らせ

平成二十三年度の研修会は、六月に開催した関ブロ研究協議会の関係で、従来の六月開催を九月以降に、また、県大会については、県民文化センターを会場にしてみました。東日本大震災で被災し、特に大ホー

ルは今年度使用ができないことから、別の会場に変更しての開催となりますので、ご了承をお願いします。

○市町村民生委員児童委員協議会会長・副会長合同研究協議会

【県北・鹿行地域】

九月一日(木)～二日(金)

大洗シーサイドホテル

【県南・県西地域】

九月八日(木)～九日(金)

大洗シーサイドホテル

○市町村民生委員児童委員教室

【県北・鹿行地域】

九月二十九日(木)～三十日(金)

大洗シーサイドホテル

【県南・県西地域】

十月六日(木)～七日(金)

大洗シーサイドホテル

○民生委員児童委員全体研修会

十月十九日(水)

小美玉市文化会館「アピオス」

○第三十回茨城県民生委員児童委員

大会

十一月二十五日(金)

小美玉市文化会館「アピオス」

(主任児童委員研修会は、七月二十九日(金)に県総合福祉会館において開催しました。)

編集後記

例年「民児協いばらき」は六月十五日と一月十五日に発行していますが、今回は、六月に開催した本年度県民児協最大のイベントである関ブロ茨城大会について特集を組んだ関係で、八月となりました。ご了承をいただきたいと思います。

県民児協も二月から新体制で出版、編集委員は七名のうち四名が新委員となりました。従来の編集方針を踏襲しつつ、誌面の刷新、内容の充実に、創意工夫を凝らし、皆様に親しんでいただけるように努めて参ります。宜しくご意見ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

編集委員長 長谷川 彌

発行人
 財団法人
 茨城県民生委員児童委員協議会
 会長 高木 彦 治
 〒310-0851
 水戸市千波町1918
 茨城県総合福祉会館内
 TEL 029-243-5361
 FAX 029-243-5902
 E-mail:iba-minjikyo@bz01.plala.or.jp